下山・さいたま記念病院副院長

徳洲会リアルワールドデータ研究の成果発表

“腫瘍循環器”と呼ばれる新しい医学領域がある。がん治療の影響などで発症する循環器疾患の予防・治療が研究目的で、2017年には日本腫瘍循環器学会が設立された。徳洲会グループは匿名化した診療ビッグデータを活用し、医学の発展に貢献するため、「徳洲会リアルワールドデータ（TREAD）・プロジェクト」を推進しており、この腫瘍循環器領域でも着々と研究成果を上げている。9月5日から2日間開催された同学会の第9回学術集会では、さいたま記念病院の下山ライ副院長（外科）が最新知見を発表した。

日本腫瘍循環器学会学術集会に登壇

演題名は「Risk Factors for Incident Arterial Thromboembolism in Metastatic Gastrointestinal Cancer: Tokushukai Real-World Data Project (TREAD 07)」（転移性消化管がんにおける動脈血栓塞栓症［ATE］のリスク因子の解析：TREAD 07）。転移性消化管がん患者さんに関して、心筋梗塞や狭心症などの急性冠症候群、虚血性脳卒中、末梢動脈閉塞といったATEの発症に関連するリスク因子について検討を行い、結果を発表した。

下山副院長は2年前の同学術集会でも、ATEを発症した転移性消化管がん患者さんを対象とした研究を発表し、ATEの1年累積発症率（1年間のうちに対象集団のなかから当該疾患を発症する率）は5.2%であり、死亡リスクは約1.5倍になるという解析結果を報告。

さらに昨年の日本臨床腫瘍学会学術集会ではATEの頻度（1.7%）に加え、主要心血管イベント（MACE＝急性心筋梗塞、脳卒中、心血管死、不安定狭心症、心不全など）についても頻度（2.9%）と予後を調べて発表するなど、TREAD 07として継続的に取り組んでいる。



「ATEのリスク因子を念頭に置いて診療を行うことが大切です」と下山副院長

背景には、近年になって注目されてきたものの、静脈血栓塞栓症と比べて動脈血栓塞栓症についての研究報告が少ない現状がある。研究が進んでいるのは主に深部静脈血栓症や肺血栓塞栓症など静脈血栓症だ。

徳洲会は患者さんの診療を通じて得られた貴重なビッグデータの活用によって、あまり開拓が進んでいない研究領域を探索し、得られた知見を還元することで、医学の発展や患者さんへの貢献につなげていく方針。徳洲会の診療ビッグデータは、併存疾患を有する高齢の患者さんなど、市中病院が実臨床で診療する機会の多い症例を豊富に含み、まさしく“リアルワールドデータ”であるのが特徴であり、研究データとしての強みだ。

TREAD07の対象は、2010年4月から2024年3月までに転移性消化管がんと診断された6,580人。ATE発症のリスク因子を調べた今回の研究では、このうち採血データを入手できた4,251人の解析を行った。内訳は食道がん207例、胃がん1,494例、小腸がん60例、大腸（結腸・直腸）がん2,490例。

患者背景や既往歴、採血データなどを解析（多変量解析）した結果、胃がん、糖尿病、高血圧、心房細動・心房粗動、血小板減少がATEの有意なリスク因子として示された。リスクの増加率は、胃がんは大腸がんと比べて110%、糖尿病は97%、高血圧は74%、心房細動・心房粗動は114%、血小板減少は10万減少当たり24%で、病理組織型による影響や相違は認めなかった。

下山副院長はこれらの研究成果を紹介するとともに、転移性消化管がん以外の幅広いがん種に関しても、ATE発症のリスク因子について大規模な解析を行う研究計画があることを示し、発表を終えた。

下山副院長は「転移性消化管がん患者さんに関し、ATE発症と関連性のあるリスク因子を明らかにすることができました。今回の解析データは、ATEの予防や新たな治療戦略を導き出せるものではありませんが、これらの因子を有する患者さんには相応のリスクがあることを念頭に置いて、臨床医は診療に臨むことが大切であるというエビデンス（科学的根拠）が得られたのは一定の成果だと考えています」と振り返る。

続けて「日本腫瘍循環器学会の学術集会は、今回で第9回とまだまだ新しい領域であり、研究の進展が望まれます。がん治療を行う医師と循環器診療を行う医師が、相互に興味をもっていただき、患者さんに、より良い治療を提供していくために、タッグを組んで進んでいけると理想的だと思います」と展望している。

TREAD07の研究成果に関しては、現在、論文を作成中。また今回の発表でも明かした他の幅広いがん種を対象にした横断的な研究は、約3万8,000症例規模の大規模な解析になる見込みだ。

「来年10月には、アジア太平洋地域で初開催となるGlobal Cardio-Oncology Summit (GCOS＝世界腫瘍循環器サミット) 2027が東京で行われます。同サミットで横断研究の成果を発表できればと考えています」と意欲を見せる。

湘南藤沢病院

救急隊員とACS体制など共有 第2回症例検討会を開催し研鑽



「できる限り多くの患者さんを救えるよう尽力」と江原院長

湘南藤沢徳洲会病院（神奈川県）は9月14日、院内で第2回症例検討会を開催した。藤沢市消防局の救急隊員を招待し、“顔の見える関係”の強化や情報共有の促進を図り、地域の救急医療の向上に資することが目的だ。救急隊員や同院職員ら50人が参加し研鑽を積んだ。

会の冒頭、江原宗平院長が「救急医療は徳洲会グループの根幹で、理念そのものです。これからも意思疎通を図りながら、救急隊員の皆さんと一緒に、できる限り多くの患者さんを救えるように尽力してまいりたいと考えています」と挨拶。

症例検討の1演題目は、同院外科／救急総合外科の澤村直輝医長が登壇し、一般外科を基盤とし救急外科や重傷外傷外科などを横断的に担う同院のAcute Care Surgery（ACS）の診療体制や、救急隊員から病院に伝えてもらいたい情報、重症例への手術戦略、実際の症例対応などについて発表した。

2演題目は、藤沢市消防局北消防署警備一課遠藤救急隊の福山里菜隊員が「初期評価で異常がなかった重症頭部外傷」、3演題目は同院の多田啓一郎・初期研修医が「意識障害で救急搬送された心筋梗塞の一例」をテーマに、それぞれ症例の経過や対応など紹介。活発に質疑応答を行って終了した。



澤村医長は湘南藤沢病院のACS診療体制を紹介

最後に同院の菊池豪事務長が「救急搬送された症例の当院での対応など転帰について、顔を合わせて皆さんと共有することは、医療の質の向上を図っていくうえで大変重要な取り組みだと考えています」と、症例検討会の継続に向けて力を込めた。

営業と採用で連携強化

徳洲会の北海道ブロック介護部門

徳洲会の北海道ブロック介護部門は「広報・人材確保部会」を設置し、入居者・利用者さん集めに向けた営業活動と、職員の人材確保活動に連携して取り組んでいる。同部会は2014年に設立し、特別養護老人ホーム（特養）、介護老人保健施設（老健）、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）など5施設・7人で活動。



病院の医療相談員を対象とした施設見学会の様子

人材確保では、道内の介護系高校や専門学校11校を毎年訪問。10年間で19人の新卒職員が入職した。今年度は老健母恋（室蘭市）、サ高住徳洲苑はこだて（函館市）とも連携し、活動の幅を広げている。一方、営業活動では主に医療講演を実施。昨年度は「介護施設の選び方」をテーマに年間15回開催し、計190人の参加があった。

さらに、グループ病院と施設の連携強化を図るため、病院の医療相談員を対象にした施設見学会を企画。今年度は8月21、26日の2日間で行い、6病院から26人が参加した。「顔の見える関係づくりや相談員同士の交流につながった」、「病院間の情報交換の場になった」と好評で、より連携を深める機会となった。

西村隆宏・老健コスモス支援相談員課長は「今後も単独施設では難しい取り組みをブロック内で協力して進め、優秀な人材の確保や徳洲会介護施設の魅力発信に努めたいです」と意気軒高だ。

音信温心

小学生が医療現場を体験 多職種8人が協力し対応

仙台徳洲会病院

当院は9月23日に、地域の七北田公園で開催された小学生向け職業体験イベント「わくわくわーく」に参加しました。開催に向けて看護師、事務職員、研修医の計8人が、職種を超えて体験内容や必要な物品、役割分担などを打ち合わせし、実際に機器を使って体験の流れを確認するなど、本番に向けて準備を重ねました。



看護師、事務職員、研修医が職種を超えて協力



看護師体験では子どもが家族の血圧を測定

当日は晴天にも恵まれ、イベント全体で約1,500人が来場。当院ブースにも300人を超える子どもたちが訪れました。聴診器で心音を聴いたり、ご家族の血圧や血中酸素飽和度を測ったり、ペンライトで瞳孔を観察したり、鉗子を使って小さなおもちゃをつかんだりと、さまざまな体験を楽しんでいました。

職員の説明を聞きながら何度も機器を手に取る子どもや、親子で測定結果を見比べる姿も見られ、ブース内は活気に包まれました。時間帯によっては体験を待つ列ができるなど、多くの親子で終日にぎわいました。

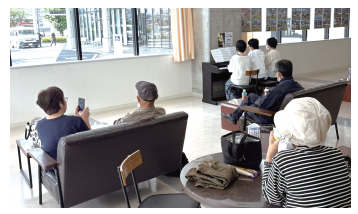
（熊谷綾・看護主任）

主治医への恩返しを込めて 武蔵野病院でピアノ演奏会

武蔵野徳洲会病院（東京都）は10月7日、エントランスホールでピアノ演奏会を開いた。今回は女性3人によるピアノの連弾が人気のユニット、「pianon」が出演し、邦楽や洋楽のヒット曲など計7曲を披露した。正午開演ということもあり、食事の手を止めて手拍子をする患者さんもいるなど会場となった食堂は盛り上がりを見せた。

同院はこうしたボランティアでの演奏会を不定期で実施しているが、まさにpianonがきっかけとなった。メンバーの1人が5年前にがんを患い、当時は都内の大学病院に勤務していた主治医の横山政明・消化器外科部長の手術を受けた。その時の丁寧な声かけや対応に主治医として信頼を寄せ、武蔵野病院に移った後も、健診や診察のため横山部長のもとに通っている。

「武蔵野病院に来るたびに、演奏しています。少しでも先生に恩返しできたら」と笑顔。



3人の連弾による演奏で、にぎわう会場

WEB医療講演スケジュール
Facebookで公開中！

徳洲会グループ病院では、さまざまなテーマで医療講演を開催している。オンラインで受講可能な講演を徳洲会グループのFacebookで公開中。当該病院のホームページで参加方法などを要チェック！